

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 282

事務事業名	法定予防接種等接種事業
-------	-------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	こども未来部		
課名	こども家庭課		
課長名	山下 浩典	内線	170
担当者名	田澤 光徳	内線	170

基本目標	010102	人を育むまち
政策		子育てしやすいまちづくり
施策		親と子の健康増進
関連施策		

会計	1	一般会計
款	4	衛生費
項	1	保健衛生費
目	2	予防費
事業コード	030100	法定予防接種等接種事業

事業類型	1	ソフト事業(義務)
個別計画	大村市次世代育成支援行動計画	
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	(1)予防接種法の規定により定期接種の対象年齢に該当した市民 (2)任意接種を希望する市民		
意図 対象をどのような状態にしたいか	予防接種を受けることにより、感染症の感染又は罹患後の重度化を予防する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	(1)予防接種法に基づく定期予防接種の実施(乳幼児、学童、中高生を対象) (A類)BCG・ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオ・麻しん・風しん・日本脳炎・子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌・水痘・B型肝炎 (2)任意接種費用の助成(乳幼児から小学生を対象) インフルエンザ		
事業期間	年度 ~ 平成	年度	実施方法 委託
根拠法令、要綱等	予防接種法		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 接種者数(法定)	計画値	12,312	22,328	21,807	20,480	
		実績値	23,665	22,330	20,382		
	当初予算の接種見込者数	達成度	192.2%	100.0%	93.5%		
	② 接種者数(任意)乳幼児・小学生インフル	計画値	7,694	8,060	6,977	13,910	
実績値		7,334	7,822	7,241			
成果指標	① 接種率(法定)	計画値	100	100	100	100	
		実績値	122	90	91		
	接種者/対象者	達成度	121.5%	90.1%	90.9%		
	② 接種率(任意)	計画値	68	68	65	56	
		実績値	56	57	56		
	接種者/対象者	達成度	82.9%	83.5%	85.7%		

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	161,414	240,621	246,853	225,970	282,349	282,349	282,349	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他					17,436	17,436	17,436	
一般財源	161,414	240,621	246,853	225,970	264,913	264,913	264,913	
② 人件費(千円)	5,585	5,958	5,590	4,981	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.67	0.75	0.75	0.63				
時間外勤務(時間)	130.5	145	150	200				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	166,999	246,579	252,443	230,951				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成28年度は高齢者に関する予防接種は国保けんこう課に一本化し、広報やホームページ等で接種ワクチンごとの窓口を周知させる準備をしている。今年度に関しては、インフルエンザの助成対象を小学生まで拡大した。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	平成28年10月からB型肝炎ワクチンの定期予防接種が開始となり、対象者が期間内に接種できるようにする。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
有効性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
原則、診療報酬点数に基づき接種料金を設定しているため、削減の余地はない。 定期予防接種については、高い接種率を確保するため全額助成が妥当である。インフルエンザについては、対象年齢に応じて適正に自己負担を行っている。							

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入していません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	平成28年10月開始のB型肝炎ワクチンの予防接種の開始に伴い、定期予防接種化を周知させるために広報やホームページなどを活用し、対象者が期間内に接種できるようにする。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	予防接種対象者が期間内に予防接種を受けることができる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。